●馬頭観音
◆大正11年（1922）

●芭蕉句碑
◆慶応３年（1867）

三面八臂の優美な坐像で、傍らには、「牛馬攝待水」と彫られた水飲み場がある。馬頭観音の背後には、幕末の足助を代表する俳人・文化人であった板倉塞馬が建立した芭蕉句碑もある。

●足助商工会
◆明治19年（1886）

昭和33年まで足助警察署として使用されていた。

●普光寺

本堂は、大火以前の享保12年（1727）の建立。屋根は茅葺きであることから、大火以前の町家は茅葺きや板葺きの屋根が中心であったことがうかがえる。

●旧田口家住宅
◆江戸末期以前

平入2階建ての主屋の背後に4棟の蔵が連なり、街道沿いから裏通りまでの屋敷構えを良好に維持している。

●宗恩寺

現在の本堂は、文政12年(1829)の再建。明治44年(1911)建立の鐘楼は、足助八景のひとつとして親しまれ、高台にある境内からは足助の町並みを一望することができる。

●慶安寺

慶安寺は、慶安元年(1648)に現在の地に建立された。山門は大火以前の安永2年(1773)に建てられたもので、大火の類焼範囲を知る手がかりとされている。

●太田家住宅（三嶋館）
◆天保頃（1830～43）

当初は呉服屋で、明治初期からは旅館を営んでいた。

●小出家住宅
◆安永4年（1775）以前か

酒造や味噌の醸造のほかに三河湾岸の新田開発も行った足助を代表する大商家。足助の町並みの特徴的な短冊状の敷地割と異なり、間口の広い斜面地に建物群が建てられている。

モデルコース

◆おすすめコース　（30分）
常夜灯→道標→中橋→マンリン小路→加東家→エビヤ小路→足助川沿い→飯盛橋→常夜灯

◆伊那街道コース　（20分）
常夜灯→道標→飯盛橋→マンリン小路→馬頭観音→落合橋→常夜灯

◆よくばり散歩コース（60分）
常夜灯→道標→中橋→加東家→慶安寺→宗恩寺→普光寺→馬頭観音→落合橋→常夜灯

◆足助川と街道コース（90分）
常夜灯→落合橋→馬頭観音→マンリン小路→加東家→足助中馬館→萓屋→新道→旧道→小出家住宅→足助川沿い→中橋→塩の道づれ家→常夜灯

●白久商店
◆文化12年（1815）

もとは呉服太物商店。足助川側からはなまこ壁仕上げの土蔵を見ることができる。

●萓屋 ◆江戸後期

幕末から明治期にかけて、足助に13軒あった塩問屋の中心的存在として栄えた。街道沿いに妻入２階建ての主屋と平入２階建ての塩座が建ち並び、足助川側の石垣の上に離れ座敷や土蔵が建つ姿は、足助の町並みの特徴をよく表している。主屋・塩座・土蔵・離れ座敷は、市指定有形民俗文化財。

●加東家 ◆文化元年（1804）

江戸後期に酒造業、大正期から昭和初期には質屋が営まれていた。西側の座敷の床柱に残る刀傷は、天保7年(1836)の加茂一揆による打ち壊しの際のものといわれている。

●足助中馬館（旧稲橋銀行足助支店）
◆大正元年（1912）

稲橋銀行足助支店として建造された。住民の熱意によって保存・活用されることになり、昭和57年に足助中馬館として開館した。商業・金融・交通・町並みなどの資料を展示し、一般公開されている。
県指定有形文化財。

●旧鈴木家住宅
◆宝暦7年（1757）

当初は紙を扱う商家であったと考えられ、その後、醸造業、金融業、新田開発なども手がけた足助を代表する大商家。大火翌年に建てられた主屋は鍛葺き一部２階建てで、その後、江戸時代後期から近代にかけて建てられた建物がそのまま残り、近世の最上層の商家の屋敷構えを今に伝えている。**国指定重要文化財**。

●玉田屋 ◆江戸末期

当初の屋根は切妻であったが、後の改造により前面が入母屋、背面が切妻という個性的な造りとなった。
建築当初より現在まで、旅館として旅人を迎え入れている。

●道標 ◆弘化２年（1845）

伊那街道と鳳来寺街道の分岐点に建てられ、「右ほうらいじ道　左ぜんこうじ道」と刻まれている。

●両口屋
◆文化文政期（1804～29）頃

大正期頃まで蔺問屋を営み、戦後に学校給食のパン製造を手がけていた。
主屋は、足助では珍しい入母屋平入２階建て。

●塩の道づれ家 ◆明治中期

旧渡辺医院。平成16年に町並み活性化施設として整備され、飲食店やイベントなどに活用されている。

●常夜灯 ◆寛政11年（1799）

秋葉講の人々により建立された。当初は本町の地蔵堂境内にあったと伝えられている。

足助の町並みや紙屋鈴木家の情報を発信中
[紙屋鈴木家] 公式インスタグラム
@kamiyasuzukike